

道徳学習指導案

安芸高田市立根野小学校

山崎 純子

- 1 学 年 第5学年
- 2 主題名 精一杯生きる 3 - (2)
- 3 ねらい 本田美奈子・さんの生きざまから死の重さ、生きることの喜びを知り、力強く生き抜こうとする心情を育てる。
- 4 資料名 「w i s h」生きるために生きる ～本田美奈子・の願い～（自作資料）
- 5 学習過程

	学習過程	主な発問と児童の意識の流れ	指導上の留意点
導 入	1 「w i s h」を聞き、感想を話し合う。	○「w i s h」を聞いてどんな感想をもちましたか。 ・ きれいな音楽だな。 ・ 元気をもらえる気がする。	○ 発言しやすい雰囲気をつくる。
展 開 前 段	2 本田美奈子・さんが歌手としての活躍する様子や病気と闘う様子を知り、美奈子さんの気持ちの変化を話し合う。	○ 美奈子さんは、病気を知ってどんなことを思ったでしょう。 ・ どうしてこんな病気になったのだろう。 ・ 死ぬのは怖い。 ・ どうしてわたしだけつらい目にあうのだろう。 ○ 美奈子さんの気持ちを支えたのは何だったでしょう。 ・ 大好きな歌を歌いたい気持ち。 ・ 家族の気持ち。 ・ ファンからの励まし。 ・ 同じ病気の人のがんばる姿。 - 病床で歌を歌いながら美奈子さんはどんなことを思っていたでしょう。 ・ 病気になんか負けない。 ・ 早く病気を治してもっと歌いたい。 ・ 自分の歌でまわりの人を勇気づけたい。 ○ 「w i s h」を作った人たちが「恩返し」と言ったのはなぜでしょう。 ・ 命の大切さを教えてくれたから。 ・ 一日一日を大切にすることを教えてくれたから。 ・ どんなにつらいことがあってもあきらめないことが大切と教えてくれたから。	○ パワーポイントで視覚的にもとらえられるようにする。 ○ 美奈子さんが病気と闘う中で自分の強い意志とともに彼女を支えたたくさんの人たちがいたことをとらえさせる。 ○ 病気を通して歌を歌うということに新しい意味を見出した美奈子さんの気持ちの変化をとらえさせる。 ○ 歌を通して「生きることのすばらしさ」を伝えたいという美奈子さんの前向きな生き方が、周りの人に命の大切さや生きる喜びを教えてくれたことに気づかせる。

		・ 生きることのすばらしさを教えてくれたから。 ・ 希望をもって生きるすばらしさを教えてくれたから。	
展開後段	3 資料から離れ、自分のありようを考える。	○ 美奈子さんは今のあなたにどんなことを話してくれると思いますか。	○ これから、命を大切にしていこうという意欲を持たせる。
終末	4 「wish」を聞く。		○ 余韻をもって終わる。

6 資料

「wish」 生きるために生きる ～本田美奈子・の願い～

ここに一枚のCDがあります。「wish」。ある一人の女性歌手の生きた証を残そうと作られたCDです。

昭和42年、東京都に一人の少女が生まれました。工藤美奈子。後の本田美奈子・の誕生です。美奈子は小さいころから歌が好きで、将来は歌手になることを夢見ていました。

昭和60年、16歳になった美奈子は夢であった歌手としてデビューします。ヒット曲を出し、大きなホールでのコンサートを成し遂げアイドルとしての道を一気に駆け上った美奈子でした。

そのときの思いを後にこのように話しています。

「夢は歌手になる事でした。

夢は叶いました。

夢は持ち続けると叶うものと思います。」

しかしその後はヒット曲にめぐまれず、苦しい時代が続きます。そんなときも美奈子は笑顔を絶やさず周囲の人々への気づかいを忘れませんでした。

平成4年、一つの転機がやってきます。ミュージカル「ミス・サイゴン」のオーディションを受け、ヒロインであるキム役を12000人の中から射止めたのです。その後、美奈子は次々とミュージカルで活躍し、高い評価を受けます。

「今も常に新しい希望、新しい夢を持っています。勇気を持ち目標に向かってチャレンジし続けたいと思います。」

ミュージカルで活躍する一方、歌うことへのこだわりを持ち続けた美奈子。

「私がこうやってたくさんのことに挑戦するのって、やっぱり全部歌のため、歌を磨くためなんです。」

「もちろん、こうしていろんな体験のできる『演技をするお仕事』も素晴らしいんですけど、歌が好きでこの世界に入った以上、女優ではなく、わたしは歌手の本田美奈子・でいたいんです。」

と当時の美奈子は語っています。

平成15年5月、美奈子はさらに新しい挑戦を始めます。クラシックの曲に日本語の詞をつけて歌い、新しい音楽の世界を切り開きました。

しかし、日々新しいチャレンジを続け、自分を高めようと努力をする美奈子に、突然の不幸がおそいます。平成17年1月12日、急性骨髄性白血病と診断され入院。病気の重大さを自覚した美奈子は、全力で病魔と闘うことを決意します。

「歌いたい。ステージに上がりたい。」

美奈子はもう一度ステージで歌うことを夢見てつらい治療にも耐えます。3度の化学療法の治療、全身の血液の入れ替えなど、苦しい闘いを乗り越えます。そして医師の薦めにより、白血病の新しい治療法の手術がおこなわれ、7月30日には一時退院、7月31日に自宅で誕生日を迎えることができました。

治療によって髪の毛は抜け落ちてしまいましたが、美奈子は毎日違う柄のバンダナを巻いて自分を励まし続けました。

死と隣り合わせの生活。しかし、お見舞いの人があると美奈子は、
「わたしは大丈夫。あなたは元気？」

とその人を笑顔で気づかっていたいました。

病室の中でも、歌への思いをあきらめず歌い続けた美奈子。口内炎が口からのどに広がり、痛くて話すことも難しくなりました。それでも病室を蒸気でいっぱいにし、のどの痛みを和らげて歌い続けました。そして、病床で美奈子自身が選曲し、病気と闘いながら病室でレコーディングした新しいアルバム「アメイジング・グレイス」をリリースしたのです。

一時はがん細胞も減少し、希望の光が見えました。しかし、がん細胞は美奈子の体をむしばみ続けました。

平成17年10月病状が急変。懸命な治療がおこなわれましたが、その甲斐なく11月6日午前4時38分、帰らぬ人となりました。

平成18年11月1日、「wish」が発売されました。本田美奈子が病床で綴った詩をもとにつくられた歌です。その記者会見の席でボーカルを担当した福山雅治は「美奈子さんへのささやかな恩返しができた」と話しました。

本田美奈子 .

彼女は今、空のかなたで何を思っているのでしょうか。

参考にしたCD・書籍

CD 「wish」: INOUE AKIRA&M.I.H.BAND ユニバーサルミュージック

書籍 『天国からのアンコール』2006年のマリリン:「天国からのアンコール」制作委員会編
ゴマブックス株式会社